

外国語の扉

英文法ガラガラポン話せるために

NHK英会話講座講師 大西泰斗 さん



おおにし・ひろと 1961年生まれ。東洋学園大学教授。NHKラジオの「ラジオ英会話」、同テレビの「大西泰斗の英会話☆定番レシピ」の講師を務める。「それわ英語じゃないだらふ」（幻冬舎）など著書多数。=山根祐作撮影

中学時代の英語の授業で感じたのは「英語って理不尽な言葉だな」ということでした。定期テストで「What is it?」と「あれは何ですか?」という質問に答える問題があり、僕は「That is a pen」と答えて、間違いいりました。正解は「It is a pen」なんです。「That」は聞かずに「That」と答えて、どうして間違ひなんだろかと思いましたが、先生に質問しても、英語はそうならないんだという説明しかしてもらえないんです。

高校に進んでも、英語だけはどうしても成績が伸びませんでした。学校で習う文法では、英語の仕組みが見えず、頭を空っぽにして覚えるしかないんだと、あきらめのようなものを感じていました。でも、大学では、そんな理不尽さへのリベンジもあって、英語学を専攻したんです。

僕は、英語を学ぶ意味は、自由になることだと思います。自由っていいんだ」ということでした。言語学では、より一般性が高く、コンパクトで、実際に人間の頭に入っていくような文法理論を作っていきます。僕にとって目の覚めるようなうれしきことでした。論理がしっかりしてれば、自由にシステムを作れる。今ある英文法もガラ

ガラポンしていいんだ、という自由を得たと感じました。日本人が中学、高校でまじめに英語を勉強してきたけど、なかなか話せるようにならないのは、英語教育が英文読解を目標にしているからです。いまNHKの番組で英会話講座の講師を務めています。英語は語順が大切とよく考えに基つき、五つの基本文型で二つの修飾ルールといった「話せるため」の英文法を解説しています。従来の文法と違うのは、英語でなぜそういうことが起きるのかという理由があること、そしてそれが心理的に自然にわかること、さらにシンプルであることです。

毎日の講座で伝える理由はとても単純なのですが、それを使って話せるようになるには、心に根付かせる必要があります。そのためにぜひ音読・暗唱を、と強く勧めています。

自由になることだと思います。英語で伝えられるようになって「あ自分は、世界のどっかで生きていける」という気持ちになることは、人間にとってもすごく重要なと感じます。そうすれば、今まで無意識に自分の周りに築いてきた堀や垣根をとりこぼすことができるのです（聞き手・山根祐作）